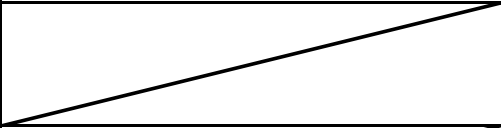


児童発達支援又は放課後等デイサービス事業に係る自己評価結果公表用

公表日：2020年12月21日

事業所名： オリオンまとがた

区分		チェック項目	現状評価(実施状況・工夫点等)	保護者の評価	保護者の評価を踏まえた改善目標・内容
環境・体制整備	1	利用定員に応じた指導訓練室等スペースの十分な確保	確保出来ている。個別活動やプログラム別で分ける等しながら日々の支援を実施している。	「はい」21名 「どちらともいえない」3名 「わからない」4名	現状のように引き続き実施していく。新型コロナウイルス対策としてソーシャルディスタンスを保ったまま出来る活動も考え、尚且つスペースも確保出来るように努めていく。
	2	職員の適切な配置	出来ている。基本的な配置基準に加え、プラス1名で配置している。	「はい」17名 「どちらともいえない」1名 「わからない」9名	日々の支援に加え、保護者からの相談等にも対応出来るように努めていく。
	3	本人にわかりやすい構造、バリアフリー化、情報伝達等に配慮した環境など障害の特性に応じた設備整備	手すり、シャワールーム、更衣出来る場の設置。またはトイレの場所等、分かり易く表示している。玄関先に段差があり、バリアフリー化は出来ていない。	「はい」18名 「どちらともいえない」1名 「わからない」9名	現在の設備整備に加え、障害の特性に応じた伝達等が出来るように視覚支援や意思表示カード等を多く取り入れていく。
	4	清潔で、心地よく過ごせ、子ども達の活動に合わせた生活空間の確保	活動部屋に加え、送迎車の清掃や消毒も実施している。	「はい」20名 「どちらともいえない」1名 「わからない」7名	現状の内容を引き続き実施していく。
業務改善	1	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)への職員の積極的な参画	しっかりと実施出来ていない。特にチェック機能と、そこからの改善が弱いと感じる。		
	2	第三者による外部評価を活用した業務改善の実施	第三者評価は受けていない。		
	3	職員の資質の向上を行うための研修機会の確保	自己研鑽としてweb講義の実施。外部への研修参加はほとんど出来なかった。法人としては年に数回の研修会を実施し支援について学んだ。		
適切な支援の提供	1	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上での児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画の作成	実施しているが、子どもと保護者のニーズ、客観的に分析というところが少し弱いかもしれない。	「はい」27名 「わからない」1名	引き続き現状の把握やニーズを定期的にとり、アセスメント項目においても細分化出来るように進めていく。
	2	子どもの状況に応じ、かつ個別活動と集団活動を適宜組み合わせた児童発達支援又は放課後等デイサービス計画の作成	実施している。会議を重ね、個別活動を更に先々に繋げていけるものにしていく必要はあると感じている。		継続して実施していく。日常生活や地域に出た時の体験や経験も出来るように計画に組込んでいこうと思っている。
	3	児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画における子どもの支援に必要な項目の設定及び具体的な支援内容の記載	出来ている。長期目標と短期目標を組み込んで努めている。更に具体的に記載していけるようにしたいと思っている。		引き続き実施していく。保護者へ対して、長期目標として先々の進路先やそれに必要なこと等も聞き取りをしながら組み込んでいけたらと思う。

区分		チェック項目	現状評価(実施状況・工夫点等)	保護者の評価	保護者の評価を踏まえた改善目標・内容
適切な支援の提供（続き）	4	児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画に沿った適切な支援の実施	適切な支援は実施出来ている。計画についてはアセスメントを細かく実施し、更に先を見据えたものにしていく必要があると感じている。	「はい」27名 「わからない」1名	現在の内容を継続しながら、成長の過程でのプログラムの立て直し等も積極的に実施していく。
	5	チーム全体での活動プログラムの立案	出来ている時と出来ていない時がある。全体、個々、複数名での立案もある。		全体での立案に加え、担当のみでの立案等を使い分けていく。共有はしっかりと実施していく。
	6	平日、休日、長期休暇に応じたきめ細やかな支援	平日に比べ休日は支援時間も長くとれている為、課外体験等の行事的なものを月に数回組み込むようにしている。		現状の内容を引き続き実施していく。平日においては時間が短くなるが、個々に対応したプログラムにも力を入れていく。
	7	活動プログラムが固定化しないような工夫の実施	同じ物ばかりにならないように意識している。工夫ではないが、その活動をする理由、根拠を出来るだけ伝えられるように考えている。		現状に加え、週間予定または月間予定を立てることに努める。
	8	支援開始前における職員間でその日の支援内容や役割分担についての確認の徹底	前日に確認、当日の朝に再確認を実施している。		現状の内容を引き続き実施していく。必要に応じてオンラインでの共有も実施していく。
	9	支援終了後における職員間でその日行われた支援の振り返りと気付いた点などの情報の共有化	出来ている時と出来ていない時がある。紙ベースやデータの引継ぎに加え、情報の共有化などもLINE等を使用しているが、上手く共有出来ない時がある。		紙ベースとデータでの共有化により統一感がないのが現状である。混乱しないように、共有の仕組みを考え直す。特に休みの職員へ対する伝達が弱い為、そこを重点的に検討。
	10	日々の支援に関しての正確な記録の徹底や、支援の検証・改善の継続実施	記録の時間をしっかりととり、詳しく記録している。検証や改善の継続についてはまだしっかりと出来ていないのが現状である。		現状の内容を引き続き実施していくことに加え、検証や改善の継続実施をおこなう為の会議や検討会を実施していく。
	11	定期的なモニタリングの実施及び児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画の見直し	出来ている。		現状の内容を引き続き実施していく。その上でアセスメントや情報収集においても確実に実施していく。

区分		チェック項目	現状評価(実施状況・工夫点等)	保護者の評価	保護者の評価を踏まえた改善目標・内容
関係機関との連携	1	子どもの状況に精通した最もふさわしい者による障害児相談支援事業所のサービス担当者会議への参画	管理者、児童発達支援管理責任者に加え、現場での児童担当者が出席出来るようにしている。		現状の内容を引き続き実施していく。その後の他職員への共有においても工夫検討していく。
	2	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援の実施	連携した支援は出来ていない。		今後、情報収集などを実施していく。
	3	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制の整備	連絡体制の整備は出来ていない。主に保護者との連絡体制となっている。		必要に応じて保護者に加え、医療機関等との連携や情報交換を積極的に実施していく。
	4	児童発達支援事業所からの円滑な移行支援のため、保育所や認定こども園、幼稚園、小学校、特別支援学校(小学部)等との間での支援内容等の十分な情報共有	該当なし		該当なし
	5	放課後等デイサービスからの円滑な移行支援のため、学校を卒業後、障害福祉サービス事業所等に対するそれまでの支援内容等についての十分な情報提供	同法人の場合は出来ているが、他の事業所の場合こちらから詳しく情報提供をすることはあまりない。確認の連絡があれば実施している。		同法人においては今後も連携をしていく。他事業所等においては横の繋がりを作りながら、進めていけるように努める。
	6	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携や、専門機関での研修の受講の促進	出来ていない。		今後検討する。
	7	児等発達支援の場合の保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、放課後等デイサービスの場合の放課後児童クラブや児童館との交流など、障害のない子どもと活動する機会の提供	出来ていない。	「はい」2名 「どちらともいえない」3名 「いいえ」5名 「わからない」18名	職員においても横の繋がり等を作れるように努めていき、情報交換や共有に繋げていけたらと思う。その上で活動する機会の提供も実施出来ればと思う。
	8	事業所の行事への地域住民の招待など地域に開かれた事業の運営	出来ていない。		事業所でのイベント等、地域住民との関わりが増えていく取り組みを検討していく。

区分		チェック項目	現状評価(実施状況・工夫点等)	保護者の評価	保護者の評価を踏まえた改善目標・内容
保護者への説明責・連携支援	1	支援の内容、利用者負担等についての丁寧な説明	支援内容においては毎日のノートと送迎時の口頭での連絡。必要であればLINEでの報告を実施している。利用者負担等費用面についても説明を実施している。	「はい」27名 「どちらともいえない」1名	現状の内容を引き続き実施していく。
	2	児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画を示しながらの支援内容の丁寧な説明	出来ている。	「はい」24名 「どちらともいえない」2名 「わからない」2名	現状の内容を引き続き実施していく。保護者と職員が顔を合わせるもっと機会を増やしていけたらと思う。
	3	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対するペアレント・トレーニング等の支援の実施	意識はしているが、しっかりと出来ていないのが現状である。	「はい」9名 「どちらともいえない」4名 「いいえ」3名 「わからない」10名	ペアレント・トレーニングに対する知識を学び直す。保護者との関わりや互いに顔を合わせて話ができる環境を作る。
	4	子どもの発達の状況や課題について、日頃から保護者との共通理解の徹底	必要に応じて実施している。ただ定期的には出来ていない。	「はい」26名 「どちらともいえない」1名	定期的なアセスメントの実施、フェースシートの更新を実施する。
	5	保護者からの子育ての悩み等に対する相談への適切な対応と必要な助言の実施	電話や送迎時等で対応出来るように努めている。	「はい」19名 「どちらともいえない」2名 「わからない」5名	相談に対応し得るだけの知識や経験またはデータや根拠を職員が取得できるように事業所内研修や会議を重ねていく。
	6	父母の会の活動の支援や、保護者会の開催による保護者同士の連携支援	出来ていない。	「はい」2名 「どちらともいえない」6名 「いいえ」6名 「わからない」13名	保護者会開催の検討または、保護者が気軽に事業所へ立ち寄れるような仕組みを作りたいと思う。
	7	子どもや保護者からの苦情に対する対応体制整備や、子どもや保護者に周知及び苦情があった場合の迅速かつ適切な対応	管理者を中心として、その日のうちに解決、対応、周知出来るように努めている。報告書等もその日の内に作成し、職員へ周知している。	「はい」21名 「わからない」5名	現状の内容を引き続き実施していく。それに加え、今後の対応も明確に先方へ伝える。
	8	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮	送迎時の口頭報告に加え、必要に応じてノートまたはLINEでのやり取りを実施している。	「はい」26名	現状の内容を引き続き実施していく。
	9	定期的な会報等の発行、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報についての子どもや保護者への発信	会報の発行は法人で年2回実施している。事業所のものは無い。行事予定についてはその都度、お知らせ出来るようにしている。	「はい」24名 「どちらともいえない」1名 「わからない」1名	定期的な事業所会報の検討、またはホームページの充実をはかっていこうと思う。
	10	個人情報の取扱いに対する十分な対応	個別にファイリングして鍵付きの場所へ保管している。	「はい」24名 「わからない」2名	現状の内容を引き続き実施していく。緊急時の個人情報の取り扱いについても再度保護者への確認が必要と考えている。

区分		チェック項目	現状評価(実施状況・工夫点等)	保護者の評価	保護者の評価を踏まえた改善目標・内容
非常時等の対応	1	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルの策定と、職員や保護者への周知徹底	作成しているが、内容を細かくする必要があると感じている。保護者への周知に関しては不十分なところはる。	「はい」15名 「どちらともいえない」2名 「わからない」9名	マニュアル内容の見直しや、新たなマニュアルの作成を実施する。
	2	非常災害の発生に備えた、定期的に避難、救出その他必要な訓練の実施	年2回の避難訓練を実施している。	「はい」17名 「わからない」9名	実施内容を継続する。また、児童への支援として動画等で災害への意識を高めていく。
	3	虐待を防止するための職員研修機会の確保等の適切な対応	外部研修の機会は少ない。事業所内として毎月のセルフチェックの実施や、その都度の会議での話し合いを実施している。		現状の内容を引き続き実施していく事に加え、兵庫県知的障害者施設協会が毎年実施している虐待未然防止研修等にも積極的に参加できるようにしていく。
	4	やむを得ず身体拘束を行う場合における組織的な決定と、子どもや保護者に事前に十分に説明・了解を得た上での児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画への記載	組織的な決定の流れは職員に周知している。現状身体拘束を実施したことはない。保護者への説明においてはもう少ししっかりとしておく必要はあると感じている。同意書は貰っている。		現状の内容を引き続き実施していく。説明においては年1回は実施していく。
	5	食物アレルギーのある子どもに対する医師の指示書に基づく適切な対応	対象児童がいない。		対象児童がいない
	6	ヒヤリハット事例集の作成及び事業所内での共有の徹底	ヒヤリハットの共有は出来ているが、事例集の作成はしていない。		引き続き共有は確実に実施していく。事例集の作成については検討する。